

CROI 2017 参加記録

帝京大学医学部内科学講座感染症

吉野友祐

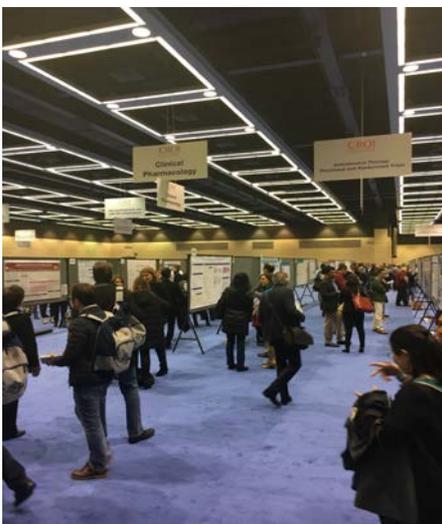
エイズ予防財団の派遣事業により 2017 年 2 月 13 日から 16 日の CROI 2017 (米国・シアトル) に参加した。

2 月 13 日 18 時過ぎ成田発 NH178 便で CROI 2017 開催地であるシアトルに向かった。シアトルは日本からの直行便があり、アクセスは他の米国の都市と比べると比較的楽であった。時差もあり同日午前 10 時過ぎには空港に到着、リンクライトレールで市内中心部・会場方面へと向かう。市内を少し散策したあと、17 時よりオープニングセッション開始となった。CROI Foundation Special Event として Zimbabwean human rights activist である Oliver Mtukudzi 音楽ライブで CROI 2017 の幕が上がった。



学会会場のコンベンションセンター

2 月 14 日より本格的に学会が始まった。同日は今回の学会で最も興味のある新規治療に関するセッションを聴講した。新規の薬剤として、ウイルスカプシドの形成を阻害しウイルス RNA の感染細胞導入を抑制するウイルスカプシド阻害剤の紹介や、本邦にも今後導入されるであろう新規インテグラーゼ阻害剤の Bictegravir についての複数発表は非常に興味深いものであった。特にこの Bictegravir は現在バックボンドラッグとして価値を見出



ポスター会場にて

されている FTC/TAF との組み合わせでの臨床的有効性が多く示され、将来的な治療の中心となる可能性もうかがわれた。また、もう一つの新規治療として、これまで複数で効果が示されてきた Dolutegravir と Rilpivirine の 2 drug regimen に関する臨床研究：SWORD1&2 の PHASE III の結果も公表された。有効性については既存の治療と差は無く非常に良好であり、薬剤暴露を減らすという観点から本治療もまた今後の HIV 治療の中心になっていく可能性がうかがわれた。本セッションでは参加者から多くの質問が上がり、世界的にも安全で有効なこれらの新しい薬剤・治

療への興味が強いことを感じた。未来の HIV 診療への重要な知識として、これらを学ぶことができたことは非常に有意義であった。

翌 2 月 15 日、本学会の中日ではポスターを中心に学んだ。ポスターセッションの中で、前日の oral presentation でも話題となった新しい薬剤についてのセッションがあった。ここでも前述の薬剤や、その他 Doraviline (新規 NNRTI) などの報告があり、HIV 治療薬について世界中で精力的に開発が進んでいることを目の当たりにした。

2 月 16 日最終日は、当科で精力的に行っている研究テーマである「HIV と骨密度の低下」に関連した発表を中心に学んだ。HIV と骨密度低下については、当科でも複数の研究を発表しているが、まずオーラルセッションの中で、FRAX スコアという 10 年以内の骨折発生リスクを算出するアルゴリズムを用いたスコアを大腿骨頸部や椎体の T スコアと組み合わせることで、より正確に骨折リスクを算出できるとの報告があり、我々の骨密度研究にも今後 FRAX スコア使用を検討したいと思うに至った。また、ポスターセッションにも骨密度に関するテーマが多くあった。これまで、HIV 自体や薬剤、特に TDF との関連は多くの研究で指摘されており、今回のポスターセッションでも複数の演題で骨密度低下がこれらの影響により認められることが示されていた。また、今後のテーマとなるであろう、骨密度低下を予防する方法としてもいくつか提案がなされていた。一つは、高濃度のビタミン D3 が TDF を使用する若年 HIV 患者において、腰椎の骨密度を上昇させる可能性がある、というものだった。もう一つは以前にも HIV 治療開始時のゾレドロン酸同時投与が骨密度低下の抑制に有効であるとされていた研究の継続で、2 年以上の長期にわたる経過でも治療開始当初のゾレドロン酸投与が HIV 治療による骨密度低下を抑制するというものであった。今後の我々の研究テーマとして、骨密度低下を抑制し、骨折リスクを低減するためにどうすべきか、と検討していた中での報告で、非常に有意義な内容であった。これらの報告を参考に、我々としてもより患者のメリットを中心とした研究を検討していきたいと考えている。また最終日でもう一つ、興味をひかれたテーマとしては、昨今話題となっており、一般向けニュースなどでも一時紹介された、**shock & kill therapy** についての報告である。ヒストン脱アセチル化酵素阻害剤である Romidepsin による HIV 潜伏の解消と HIV ワクチンを合わせて使用することにより現在最長で 22 週間 cART 再開をせずに経過している患者がいるとの報告があった。HIV 治療に向けて新たな戦略が臨床で研究されている事実を目の当たりにできた。



学会会場のコーヒーもスターバックス

おまけ：学会の昼休みに、学会会場から徒歩 10 分弱で到着する観光地としても人気のパイクプレイスマーケットを訪れることができた。ここは

シアトル発祥であるスターバックスの 1 号店もあり、また私も複数回食したが昼食としてのパイクプレイスクラムチャウダーはおすすめである。

総じて学会全体を通じ、多くのことを学ぶことができた。次回は発表する側としてまた参加したいと強く思った。